全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第36号(平成23年10月号)

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　鈴木　正之
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

私塾ネットの 塾が塾を応援する！ 東日本大震災支援対策 経過報告

私塾ネット東日本大震災支援対策委員会
委員長　田中宏道（千葉　ＬＡＰＩＳ）

会員の皆さま、ご協力本当にありがとうございました。感謝申し上げます。私塾ネットの「塾が塾を応援する！」みなさまの温かいご協力により、
総額２１８万８７０２円（私塾ネット本部からの５０万円を含む）が集まり、

あしなが育英会に　８６８，１３７円
被災地の学習塾　復興支援に　１，３２０，５６５円
（宮城・長野の被災塾へのお見舞い金を含む）
出前寺子屋への教材・検定費支援　６０，０００円（講習生２０名分）
被災地に学習教材や参考書・辞書の提供

以上のように義援・支援活動をさせていただきました。

震災復興教育支援活動第2弾
私塾ネット・出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」にご理解とご支援を

さて、次ページ以降の震災復興学習支援レポートの通り、谷村会長と和枝先生が中心となって、宮城県石巻市での「私塾ネット 出前寺子屋 漢検合格講座」が始まり、すでに２か月が経過しました。これまで私塾ネットでは「義援金・応援金」を集めた趣旨に反しないために、この活動には「義援金・応援金」から講習生２０名分相当の教材・検定関係費だけを支出してまいりました。

１０月２日の第４回目のスクーリングからは、鈴木理事長の他私塾ネットのメンバーも加わり、私塾ネットとして本格的な教育支援活動が始まっています。
出前寺子屋の講座参加者はすでに３２名となり（１０月１６日現在）、来年２月までの活動期間には講習生の増加が見込まれています。当活動を継続するためには、新たな活動費用の補助が求められる事態となってきました。

そこで、私塾ネットの震災支援対策委員会として、
①現地で指導に当たるボランティアスタッフの募集
②新たな講習生に関わる費用（教材費、検定料）
③現地へ行くための交通費の補助
④その他活動経費

以上の支援をしたいと考えております。
以下の口座にご厚情をいただけると幸いです。
今回の支援活動で残ったお金は、東日本大震災塾支援の寄付金にまわさせていただきます

振込先：郵便局
全日本私塾教育ネットワーク
口座番号００２３０－６－６８８２０

支援は１２月３１日まで受け付けています。
問い合わせ先
〒273-0137
鎌ヶ谷市道野辺本町1-4-1　ＬＡＰＩＳ内
東日本大震災支援対策委員会　田中宏道
TEL047-443-1010
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：lapis@proof.ocn.ne.jp

石巻市門脇地区の被災状況。後方に全焼した門脇小学校も見える。石巻市は23年2月の時点で人口162,822人、宮城県では仙台に次ぐ商業都市であった。震災と津波による犠牲者は死者行方不明者3,955人を数える。これは人口比2.4%にものぼる。

宮城県石巻市・震災復興学習支援レポート
私塾ネット出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」

出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」の仕組み

活動期間：2011年8月16日～2012年2月4日

①説明会＆級位判定もぎテスト　8/16、9/4、9/18

②スクーリング14：00～15：30（以下会場確定分）
　9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月以降も継続実施。
　検定教材を自宅学習し、スクーリングで進度チェックと確認テストを実施。
　小中高生徒には求めに応じて学習指導も同時実施。

③漢検受検
　第2回検定11月5日、第3回検定2012年2月4日

④受講対象者
　仮設住宅、避難所、借上げ住宅等に居住する被災市民。

⑤受講者特典
　・教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料。

◆出前寺子屋開校までの経緯

広報前号で報告した通り、５月８日、谷村は大震災支援対策委員会委員長田中宏道先生と仙台に赴いた。全国学習塾協会の会員で構成している東北災害対策本部の幹部の方々とお会いし、私塾ネットとしての支援活動計画の報告をさせていただいた。その折、谷村和枝も同行し、被災地の塾の先生方のご意見を直接お伺いする機会を得た。翌９日谷村志厚・和枝は単独で仙台市若林区荒浜地区に入り、津波被害の現場に立ちその惨状を実体験した。

この時の体験が原動力となり、谷村和枝は７月１０日、１７日、８月７日と３回にわたり単独宮城県石巻市にむかい、避難所湊小学校を拠点にボランティ活動を実行した。この活動では、専修大学石巻校の元教授木伏良明氏のご支援が不可欠であった。

８月７日、石巻市との交渉の結果、８月１６日以降仮設団地の集会所の利用が許可された。そこで、この機会を当初より計画していた学習支援のスタートとしたいと考えた。一塾一個人の立場ではなく、私塾ネットの震災復興支援活動の一環としたい旨を、鈴木理事長および震災対策田中委員長に提案し了解を得た。しかし緊急のことであったので、８月の説明会および９月のスクーリング活動は谷村個人の責任としてスタートすることとした。

谷村　志厚

出前寺子屋受講生（10月16日現在）
小学生5名、中学生6名、高校生1名、
専門学校生1名、社会人19名　　計32名
第2回漢検(11月5日)受検者18名

会場は石巻市開成1番地仮設開成第11団地内の北集会所。周囲は運動公園と工業団地の造成地。第1から11まである広大な仮設団地で、最終的には千人規模の大団地となる。

［2011年8月16日］

8月16日、出前寺子屋の始まりである。急きょ作成した告知チラシを、仮設開成第11団地の仮設住宅に木伏氏がポスティング。その結果第11団地在住の6名の方がお越しになった。内訳は小6男子1名と父親、中3女子1名、30代の一般女子1名、60代のご夫婦である。わずか5日の告知期間にチラシ150枚では、反応ゼロもありかと覚悟していたのだが、6名の参加は滑り出しとしてはまずまずかと安堵した。

[2011年9月４日]

第２回目の説明会＆級位判定テストを夏休み明けの９月４日に実施した。ＡＩＭからは谷村志厚、和枝そして講師の小仲井健太が訪問した。AIMでは毎回講師１、２名を帯同することにしている。被災地の現状と支援活動を実体験し、自らのキャリアに経験値を加えてもらいたいとの思いからである。仙台からは村山氏（東北大学准教授・元ＡＩＭ講師）が合流し、JR松島駅で待ち合わせた木伏氏の車で石巻市入りした。

集会所に入ると、前回６脚あった会議テーブルが４脚しかないことが判明した。いまだ自治意識の希薄な仮設の集会所では、備品管理もままならないのであろう。そこで千葉から持ち込んだ簡易座卓６脚の出番となった。前回の訪問時に持参し、当集会所の備品として寄贈したものだ。某店で１脚９６０円、格安の掘り出し物である。

[2011年9月18日]

９月１８日午後２時から、第３回目の説明会と第２回のスクーリングを実施した。ＡＩＭからは谷村志厚、和枝そして講師の小川大輔が参加した。仙台から前回に引き続き東北大の村山氏が合流し、JR松島駅で待ち合わせた木伏氏の車で石巻市に入った。９月１５日付の河北新報石巻版に今回の活動が紹介されたため、その日から電話での問合せが相次いでいた。当日飛び込みで来られた方を含め１７名の出席となった。その結果受講生は26名にまで増加した。

[2011年10月２日]

第３回スクーリングを１０月２日に開催した。８月１６日の開講説明会から数えれば４回目の活動である。今回は鈴木センター理事長、渡辺エリア関東総務部長が参加、いよいよ私塾ネットとしての体制が整ってきた。主管のＡＩＭからは谷村志厚、和枝そして講師の佐藤の３名、加えて渡辺塾からは内川先生と、私塾ネット６名の陣容で臨んだ。

ＪＲ　東北線松島駅で東京赤羽から車を走らせてきた渡辺、内川グループと合流した。石巻への途上、津波被害の大きい東松島市の野蒜駅に立ち寄る。いまだ開通の見通しもたたぬ仙石線、その被害の甚大さを実感する。

石巻市内に入るとまず石巻港湾の工業地帯に車を進ませる。ひときわ目を引くのは日本製紙石巻工場だが、被害の爪後から完全操業に程遠いのが現状であることが伺える。

工業地帯に隣接する住宅地の被災状況は目を覆うばかりだ。大街道地区にはまばらに住宅が残ってはいるが人気はない。門脇地区は見渡す限りがれき撤去後の殺風景な風景で、当分の間人の住める状況ではない。真っ黒く焼跡を残す門脇小学校の姿は、何度見ても心を痛める光景である。子どもたちの教育に関わるすべての者は、この場所に立ちこの光景を心に刻んでいただきたいものだ。

津波で打ち寄せられた車両のガソリンが引火炎上し、全焼した門脇小学校。6年生の講習生K君はこの惨事を体験したのだと言う。

第３回スクーリングの出席者は、新規で来られた４名を含めて２３名を数えた。テーブル８本、座卓４本の設備を全部をつかって満杯の盛況である。登録受講生は２９名となった。いよいよ定員満席の盛況である。いっこうに生徒が集まらぬ本業を思えば、うれしいような・・・なんとも皮肉なものである。これで１１月５日の検定後まで、新規の受入れは無理な状況となった。

この日は第２回検定受検希望者に、過去問題を使った模擬テストを受けていただいた。６割に足らぬ正答率の場合は、第３回検定に移動していただく心積りであったのだが、なんとその結果は・・・！２級から７級までの模擬テスト受験者１５名、最高

得点193点、最低点137点で全員が200点満点で130点以上の好成績であった。これなら全員合格の快挙も夢ではない。出前寺子屋にあらたな目標が生まれたのである。

[2011年10月16日]

第４回スクーリングの同行者はエリア関東の長谷川洋男（千葉県四街道市・秀英ゼミナール）さんである。長谷川さんは千葉学習塾協同組合の理事長なので、今回の訪問は学習塾協同組合の責任者としての視点からの視察活動の一環でもあった。ところが、ＡＩＭの同行講師が当日朝貧血を起こし、急きょ石巻行きが停止となってしまった。そのため、参加者は小生の他は谷村和枝のみとなり、完全なマンパワー不足の事態である。そこで強力な助っ人となったのが長谷川さんであった。

今回の出席者は新規で来られた３名を含めて２２名を数えた。これは前回とほぼ同数でテーブル８本、座卓５本の設備を全部をつかってほぼ満席である。登録受講生は、当日の欠席者加えると３２名となった。

休憩なし９０分の漢字学習の後、ほっと一息をつくのは「課外授業」のフラワーアレンジメントだ。好評のため今回も和枝先生の指導で実行した。今回も全員参加、楽しそうに生花を活ける皆さんは、老若男女みな等しく穏やかで幸せな表情をしている。石巻のこの地が、寺子屋に集うこの方たちが、大震災の被害を受けられた事実を一瞬忘れる時間である。生花は心のセラピストだ。

親子孫三代同じテーブルで学びそしてフラワーアレンジメントに興じる。ほほえましい光景が教室のあちらこちらで見られた。

２０１２年４月２２日（日）は、浅草ビューホテルでお会いしましょう！

ニッポン復興　私塾ネット設立１０周年記念大会

2011年４月24日に開催予定であった10周年記念大会は、１年の延期の後、2012年4月22日に「復興」をテーマに開催されます。会場は当初の計画通り浅草ビューホテルです。634メートル、世界一の電波塔として完成なった東京スカイツリーを間近に見上げながら、語らいのひとときを楽しみましょう。会員の皆さんのご参加をお待ちしております。尚、研修大会の内容等につきましては、現在実行委員会が検討、調整中です。

会場となる浅草ビューホテルの外観。手前は浅草寺の五重塔。

理事長活動日誌

理事長　鈴木正之

理事長　鈴木正之(いぶき学院)

●７月３日（日）
学習塾合同会議　東北被災地訪問

学習塾合同会議の構成団体として参加させていただきました。谷村会長、長江副理事長と相談の上、私が出向くことになりました。名取川付近から荒浜地区を中心に現地を見させていただき、村川先生の塾舎と現地から戻ってきた後で、それぞれ感想と今後の取り組みについて意見を交換をしました。今回の首都圏からの参加者は、伊藤先生、内藤先生、碇先生（以上学習塾協会）、玉木先生（ＡＪＣ）、岡田先生（東京組合）、坂田先生（埼玉組合）、森先生、宮崎先生（かながわ組合）、鈴木（私塾ネット）。東北は村川先生、荒木先生、大沼先生、木皿先生、小野寺先生。首都圏組の皆さんが「ご迷惑をおかけします」とご挨拶。それに対して、大変な日々を送られているにもかかわらず、東北の先生方から温かいお言葉をいただきました。私塾ネットを含め各団体は、今回の訪問が今後の支援、義援活動にプラスに作用することは間違いないと確信しております。私の今回の役割は他団体の先生方と、この震災に対する結束を固めていくこと、支援と義援の継続の必要性を私塾ネット会員の皆様に伝えていくことと考えております。会員の皆さん、これからも子供たちのために日本のために、活動していきましょう。頑張ろう日本！

●９月４日（日）エリア関東　懇親旅行

最近、「雨男」と関東で言われておりました。私自身は否定していましたが、春の四国に続き今回も台風に遭遇。確かにそれはあるかなと思いつつ、富士山が見えるはずの露天風呂につかりリラックス。少し参加者が少ないのが寂しかったものの楽しく過ごさせていただきました。

●９月１１日（日）
ＮＰＯ塾全協　私立中高進学相談会

塾全協の恒例行事。年を取って力仕事で協力しなくなってしまいましたが、塾全協の沼田理事長始め、稲葉先生、内藤先生、菅原先生達が頑張っていることを考えると、顔を出したくなる。この相談会は、学習塾と私学をつなぐ役割として大きな意義がある会です。今後、学習塾の仲間としてこの会をしっかり応援していきたいと考えています。

●９月１５日（木）
私塾ネット　１０周年記念式典実行委員会

東京八重洲倶楽部にて、今年度延期となった１０年記念式典、全国研修大会の概略を確認しました。

●９月１９日（日）
埼玉学習塾協同組合　中高入試説明会

初めて足を運びましたが、活気があり先生方が生き生きしていると感じました。坂田理事長に忙しい中、お相手していただきありがたかったです。

●９月２０日（火）学習塾事業活動における著作権問題とその対応についての話し合い

日本文藝家協会副理事長、三田誠広氏と社団、ＡＪＣ、塾全協等の代表者７人が対話をしました。学習塾として日本文藝家協会と良い合意ができれば、著作権に関する非合法の解消ができ、不安なく教材作成ができることになります。今後は社団が中心に話し合いが進むと思われますが、社団との取り決めは会員外の塾にも影響を与えることにもなりますので簡単には済まないと考えます。話し合いを継続をしていきたいです。

●９月２５日（日）
学習塾連絡会議　学習塾百年の歴史編集委員会

全国から４０数名の執筆者と編集委員が中大駿河台記念館に集まりました。記念誌は当初の予定をはるかに上回り１０００ページ。佐藤編集委員長、菅谷副編集委員長を始め編集委員の方々のご努力には頭が下がります。執筆者一人一人のその文へのこだわりと思いが伝わってくる会でした。山口名誉会長の「日本を良くしていきましょう」のコメント。今までの学習塾の活動を知り、現在の学習塾の状況を知ることで、未来の学習塾を創造する。それが日本の未来の教育につながると考えます。１００周年誌を多くの先生方に読んでもらいたい。私塾ネットも配布の協力をさせていただこうと思う。

●１０月２日（日）石巻出前寺子屋

谷村会長のＡＩＭ学習セミナーの教職員（谷村和枝先生が中心）が漢検講座を実施している。今回はそれに同行させていただきました。１塾が数人の職員を連れて２週間に１度、石巻に出向くということは並大抵のことではない。さらに、被災者の方々（仮設住宅暮らし＝自宅がない）と直接接したことにより、できることは何なのか、何をすべきなのかをもう一度考え直すことができました。私塾ネットとしても、震災委員会を中心に活動を進めていければと思う。

出前寺子屋で受講生の皆さんを激励する鈴木理事長。

(社)全国学習塾協会「塾の日シンポジューム in ながさき」に参加して

副理事長　長江　勝秋（英数学院）

それは10月10日長崎で行われました。私塾ネットを代表しての参加ではありますが、塾の会合がいかに真面目なものか、ということを妻に見せておく必要があるので、共に出かけました。

当日、定刻13時から長崎駅前のホテルで記念式典が始まりました。型どおり主催者・来賓などの挨拶、職員の表彰、作文コンクール優秀者の表彰等があり、今回の目玉、基調講演。**姜 尚中**（カンサンジュン）氏の講演が始まりました。１時間20分に及ぶ長い講演でした。非常に内容が濃く伝えきれませんが、以下に要約を記します。

（１）想像力・感性の対極にあるものは官僚制である。（２）現代社会を支配しているものは工学的思考【人間が作り出すもの】である。「土木・工学・建築・医学・近代戦争・経済・金融工学・マネーゲーム・エネルギーなど」（３）我々は明治以来工学的思考の専門家に社会を委ね、あずけてきた。（４）今、リーマン・原発などの問題は工学的思考の破綻である。（５）すぐれた科学者（アインシュタイン・湯川秀樹など）は全人格の陶冶を目指した。（６）工学的思考の対極にあるもの哲学・

大震災被災地区の先生方のご挨拶。右から2人目に安藤先生、5人目に畑山先生とエリア東北のメンバーのお顔が見える。

美術・文学などに注目すべきである。（７）これからの教育は、自然・生き物としての人間に注目し、人間の感性、想像力を磨くべきだ。（８）大学はリベラルアーツ（教養学部）を充実すべきだ。

続けて松香洋子先生の小学英語の講演。これは楽しいものでした。

体を使いながら、ゲーム感覚で、会話を覚える体験授業でした。松香先生の呼びかけに応じて、臆面もなく、いつのまにか舞台の上に立っている自分がいました。

懇親会の後、路面電車で移動。思案橋界隈で、いつものように、仲間と楽しく飲み、歌い、１時30分、無事ホテルにたどりつきました。

エリア関東秋の旅行会・台風接近にひるまぬ怒涛の研修会

9月4日、折悪く大型の台風12号が接近していることが世間を賑わしていたあのタイミングに、私たちは山梨県河口湖に研修旅行へと行ってきました。

その日は集合場所の新宿に着くなり激しいゲリラ豪雨に見舞われたり、台風の影響により高速道路が軒並み通行止めになったりと出だしはまさに波乱万丈でした。しかし、その後は最後まで大きな雨に見舞われることもなく比較的順調に旅が進んだことは不幸中の幸いといったところでしょうか。

さて、東京を出発した後の行程を簡単にお話いたしますと、道中にある富士宮で富士宮焼きそば（大変ボリュームもあり大満足でした）を昼食として頂き、河口湖周辺をドライブがてら観光し、夕食には絶品のうなぎをいただきました。泊った宿は貸しコテージで、ゆるりと心地よく過ごせる空間になっており、お酒を頂き、お話をしつつ、時には歌など歌いながら楽しい時間を過ごさせていただきました。その際、先生方にお話ししていただいた普段は聞くことのできない貴重なお話が大変印象深く心に残っています。

残念ながら終始晴れ渡った空を見ることはできなかったこの旅でしたが、こうして思い返してみると今では台風が来ていたということもある種、旅のスパイスになっていたように感じます。僕にとってこの旅行は学びとなるものがたくさん詰まった、充実したひとときとなりました。

エリア関東総務部部長　渡辺　浩（渡辺塾）

「裸のつき合い」 あまりにも衝撃的なショットに、あえてこの方たちの名前は記載しません。一昔前なら猥褻物チン列の罪で編集者は調べを受けるな、これは。

エリア関東主催・第29回私学情報交換会
日時：2011年10月23日　会場：市ヶ谷アルカディア

昭和63年第1回がＡＩＭ学習セミナーにて２校の先生をお招きして始まった会もはや29回目、私学と私塾をつなぐ接点としての役割の一端を担っているというのは過言でしょうか。この活動の中心は今回も司会をされた桂馬先生。毎年個性豊な学校の先生を人選されよいお話を仕掛けてくださる先生に感謝です。今年も４名の先生をお招きしました。

（埼玉県）春日部共栄中学高校　入試委員長　松宮博先生、（東京都）三輪田学園中学高校　校長　吉田珠美先生（千葉県）東海大学付属浦安中学高校　副校長　鮎川眞由美先生　芝浦工業大学付属柏中学高校校長　菅沢茂先生

開会の挨拶は仲野十和田エリア関東代表。

ネット関東代表仲野先生から「大人に元気がないと言われるが、素敵な大人になりましょう。そのためには、素敵な人と出会うことが大切だ。そんな先生に今日は会える」との挨拶があり会がスタートしました。

春日部共栄の松宮先生はアーチェリーの鉄人とか。

トップは春日部共栄の松宮先生。ネットには埼玉の学校関係者が少なく、ちょっと肩身の狭い思いをされたかもしれないが、骨太な先生のお話に聞き入った。文武両道の「武」は自分のやりたい事を力一杯やることと話された。ご自分のお子様のことを例に上げ、受験する学校は生徒自身が自分の目で決めることが大切と力説され、私の自慢は「生徒です」と、きっぱり言われた姿勢に塾人として。襟を正す思いと共に感動すら覚えました。

吉田校長は三輪田学園OGの鏡だ。

２番目は会場の私学会館のすぐ隣の三輪田学園吉田先生。御自身も卒業生とのことで125年の伝統ある学校のリーダーとして「学校の価値観と保護者の価値観がきちっと合うことが女子高では大切と思う」と話されることに、共学化していく学校が多い中で、女子高として毅然と進まれる決意のようなものを感じました。また一面生徒のことを良く見守っておられ、読書を通して生徒との交流を図っておられるようです。塾人としてまず「生徒ありき」と思うとき、大いに共感を持ちました。

美声も披露された東海大浦安中高の鮎川副校長。

３番目は非常にユニークなお話をしてくださった東海大浦安の鮎川先生。女性とは思われないバイタリティー溢れた方、ゴジラ映画誕生より数ヶ月早く生まれたお姉さんですと自己紹介されました。3月11日の地震、東海大浦安校は土地の液化現象などから20日間の臨時休校を余儀なくされたが、生徒たちがボランティア活動を通して大きく成長できたことを誇らしげに話されるなど、肝っ玉母さん的な頼れる方と思いました。また落語が好きでよく寄席に行かれるそうです。先日紙きりの正楽師匠に高座で「なでしこジャパン」の紙切りをしてもらった作品を持ってこられるお茶目なとこ、また東海大が吸収した精華学園の学園歌を最後に熱唱されるなど親しみやすい方でした。

古武術大東流師範は芝浦工大柏中高の菅沢校長。

ラストは芝柏の菅沢先生。都立高校の教員から教育委員会の主事となられるなど多彩なご経歴を披瀝され、特に教育委員会のとき、事務系改革は思うように行ったが。教員採用では色々と失敗があった話されたことは興味深かった。小石川高校の校長時代に校風のリベラリズムをしっかり学ばれたこと、そしてそのリベラリズムの流れが芝柏にもあって校長を引き受けられたお話を聞きました。先生は柔の道も究めようとされており、ここでも柔術の心得などを話したかったようですが、時間が20分の持ち時間なのでできなかったようです。どこかで聞きたいものです。

最後にまとめの挨拶を顧問の安藤先生が「年々お話される先生の内容が良くなって、うれしいかぎりです」と言われ会は次の懇親会場へと進みました。

会場を広い「大雪」にかえて懇親会が始まりました。進行はネット関東総務部長の渡辺先生。「教育でしか日本の未来は変えられないですよね」と言って、衆議院議員下村博文先生に「うん」と言わせたと会場を沸かせた鈴木理事長の挨拶、テレビで見たＳＭＡＰの「一生懸命やっている姿を見てもらいたい」と決意を促す、京北中学高校の校長川合先生の乾杯で会がスタートしました。Ａ～Ｇまでのテーブルに学校、塾の先生方を巧く配列されたので和やかな歓談が続きました。そして恒例の参加者の1分間スピーチが、会長の谷村先生の模範スピーチから始まりました。自己紹介や学校紹介などユニークなお話が多くこれも楽しいものでした。でも、時間が押してしまい途中からはネット会員は省略となり残念でした。自己紹介のトリは桂馬先生。壇上に呼ばれてのスピーチ。自己紹介ではなく出席者へのお礼を述べ深々と頭を下げられた姿勢に、先生の優しい人柄を感じました。そして最後はこれも恒例となった仲野先生作成のネット1年間を振り返るスライド上映。昨年のこの会から今日おこなれた4名の先生の様子まで、1コマ1コマ仲野さんの思いが反映された心温まるものに大拍手が送られました。ネット副理事長の長江先生の締めの挨拶で、和やかな中にも人と人との付き合いから生まれる絆みたいなものを感じながら閉会となりました。ありがとうございました。

乾杯の音頭は今年も京北学園の川合校長。

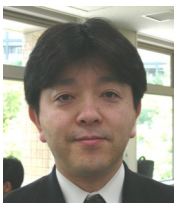
終了後片隅で会の間あまり食べられなかった食事をとる仲野、渡辺さんの姿があった。ご苦労様でした。

報告：広報部長
大住　明敬

大役を終えてほっと一息の桂馬先生。宝田先生は気の合う飲み仲間だ。

懇親会の締めと謝辞は長江副理事長。

エリア通信



エリア東北　代表　畑山　篤
（青森県・志学塾）

『ゆとり教育世代の家族のあり方／子のやる気は、親の気づき』

私塾ネット東北では、学校、家庭、社会を包含した地域教育という枠組みで、子育て・教育に関する情報発信に取り組んでおります。今夏も８月２８日（日）１３時から１６時半まで、八戸ポータルミュージアム「はっち」１Ｆ／シアター１において「’11不登校フォーラムin八戸」を開催しました。会場には６２名の教育関係者、保護者並びに不登校の子どもたちが集まりました。アンケートには、家族のあり方についての″地域の声″をたくさん賜りました。ご紹介します。

●「我が子の気持ちが聞きたい！」／子どもの気持ちを聞きたいと悩み、不登校になった子どもへの対応の仕方を模索していました。今日参加して、…気持ちが楽になりました。（中２生　父）
●「親が変わらなければ！」／いろいろな方と話をしたり、本を読みましたが、まずは親が変わらなければというところには行き着いているのですが、いつも本当にこれでいいのか、本当に子ども自身が自立をしていくのを見守っているだけで良いのか…。今日参加して、気づきについて自分を見つめ直す時間を多くしようと思いました。（中２生　母）

例年、フォーラムの夜は、通信制高校に通う不登校生の親の会を開催します。今年も市内の居酒屋に２０数名の親御さんが参加しました。感想をご紹介します。

●去年フォーラムに出会い、一筋の光を見た思いでした。畑山先生の「紡ぐ」、篠原先生の「過去を肯定する」というお話が心に響きました。今年は一歩前向きに進めそうです。（通信制高３母）
●子どもとの会話、接し方、育て方…親のあり方を考えさせられました。長い目で子が社会人になるまで、このフォーラムに参加し続けたい。（通信制高２母）
●今まで子どものことばかり責める接し方でしたが、親の接し方がいかに悪かったか気づきました。（通信制高１母）

青少年問題を担当してきた衆議院議員田名部匡代さんより熱いメッセージ。

不登校フォーラムに携わって７年になります。私は、家族のあり方にこそこの不登校問題の解決のヒントがありそうだと考えています。多くの子どもは「親を悲しませたくない」「いつかは自活したい」と心底思っています。しかし、家族の大病、脱サラ、離婚、介護などにより、家庭のバランスが崩れると感じた時、子どもたちは無意識のうちに″よい子″になって頑張ったり、または″悪い子″になって注意を受けたりするようです。親の気づかないところで子は、家庭の均衡を保つ方に動いているということです。そして、ゆとり教育世代は、クラスでの噂、陰口、無視などで簡単に心が折れ、部屋に籠もり携帯で外界とつながる生活に…。

今、高校の中退者数は全国平均で約２％です。中退には至っていないが不登校、そして不登校気味の子どもとなれば更に数は増えます。この問題はやがて、フリーター・ニートにつながり、少子高齢化の流れの中、教育・勤労・納税という我が国の根幹を大きく揺さぶることになるのではないでしょうか。学校、家庭、社会を包含した地域の本気の教育を願

仲野センター事務局長が主催者として開会あいさつを行う。

パネラーの元公立校長 関根清正先生が豊富な経験から提言を。左から日本航空高校 篠原雅成 副校長、畑山篤 塾長、後藤泰雄 塾長。

わずにはいられません。
　さて、１２月４日（日）には昨年同様「小中学生にための最新！高校入試説明会in八戸」を開催する予定です。全国の皆様のお越しを楽しみにお待ち申し上げます。
お問合せは【東北エリア事務局0120-861-419】まで。

エリア関東 広報部長　高橋直子
（千葉・津田沼学院）

『生徒たちにおおいに語ろう!!』

　私の塾では不定期に「語りかけ研修」というのを行っています。「語りかけ研修」とはその名の通り「生徒たちに何かを語るための研修」です。なぜこのような研修をするかと言うと、先生が自分の想いを生徒達に伝えるのはとても大事だと思うからです。入塾してから卒業までの間、生徒たちが常に高いモチベーションで勉強に臨むのは不可能に近いと私は思っています。宿題をやりたくない時、勉強したくない時、塾をやめたい時…など生徒の気持ちは揺れ動いています。もしタイミングよく生徒の心が救われるような語りかけができたら、その子はその先生を、その塾を信頼してくれるのでないかと思うのです。
　では語りかけはどのようにするのか、ということですがこれに答えはありません。先生が普段は意識していなくても、心の中にある生徒を想う気持ちを言葉にすれば良いのです。ただ気をつけなければいけないポイントはいくつかあります。語りかけ＝説教(叱ること)ではありませんから、上から押し付けるようなものの言い方や話の展開が簡単に予想できるような超道徳的なストーリーはよくありません。他にはタイミングを外すことや暑苦しい言い方も効果的ではないでしょう。ではどんなことが大切かというと、「先生自身が心から伝えたいメッセージを語る」ことだと思います。うちの塾でこんなことがありました。「実は塾長に気に入られそうな話を考えてきたんです。」これでは生徒の心をつかむことなど到底できません。教えている先生本人が自分の心を見つめ、自分は何を生徒たちに伝えたいのかをじっくり探り、それを言葉にするのです。その作業は簡単なことではないかもしれませんが、語りかけをするなら是非やっていただきたいことです。
　最後に私が語りかけが大事だと思う理由を述べます。
　人間は目の前の人が傷ついていたら慰めたくなります。頑張っている人がいたら応援したくなります。それはなぜかというと、人間の本質は愛だと思うからです。人は目の前の人に共感するという感性をもっている(と、私は信じています。そうならない場合は感性が鈍っている状態であり、それには何か原因があるのだと思います。)ので、先生が自分の想いを語りかけるというのはとても効果的で、時には勉強を教える以上に大切な要素だと思っています。先生の真剣な想いが生徒に伝われば必ず彼らは変わります。うまくいけばそれをきっかけに先生への信頼度がぐっと上がり、授業を含め様々な指導がうまく進められるようになるはずです。たとえ大きな変化は見られなくても、小さな小さな変化はきっと見つかるはずです。自分の想いを語るというのは慣れるまでとても恥ずかしいかもしれませんが、これも生徒のための大事な仕事の一つだと捉えてみてください。もしかしたら先生自身が語ることに快感を覚える様になるかもしれません(笑)。

エリア中部　代表　松本　紀行
（長野県・チャレンジ学院）

　この度は、私どもが被った長野中部地震の被害に対して、多くの皆様から励ましのお言葉やお見舞いを頂戴し、誠にありがとうございました。謹んでお礼申し上げます。
　二週間ほど前になりますが、宮城県の小学生からお手紙をもらいました。3月に寄せ書き、千羽鶴、それにわずかな義捐金を送ったことに対する御礼状でした。苦しい生活の中で書いてくれたことに対して、社員一同小さな感動を覚えました。たった一通の手紙ながら、なにか“申し訳ないなあ”、“もったいないなあ”という気持ちで重く受け止めております。ところで、夏期講習の際、仲野先生から教えて頂いて“うちわ”を作りましたが、これがなんと大好評でした。安価で見た目もよかったせいか、入学者も増えました。意外なことにお母様方から“節電になる”と好評でした。
　皆さんもおやりになっていると思いますが、私どもも社員教育の一つとして“チャレンジ夏期大学”をおこなっております。目的は社員が同じベクトルを持って理念を実現していく為のものです。9月22日全員が霧ヶ峰林間学校に集い、1日がかりで自己研鑽に励みました。結構いいもんですね。普段見られない表情や、真剣な態度に、思わず“かわいいなぁ”と思ったりします。この日は試験がありまして、これに合格すると昇給出来るシステムにもなっています。今年の合格率は55%でした。標高1600メートルの霧ヶ峰高原は、草花が咲き誇り、グライダーが舞い、気持ちのよい風が吹きます。しかし、夜になると厚着をしなければいけないほど寒くなります。こんな年1回のイベントが、結構団結に結びつくんですね。
　最後になりますが、私塾ネットが更に発展する為に御苦労されている役員の皆様方に心から感謝申し上げます。
P.S.　この度は、私塾ネットの皆様の過分なる震災支援金を頂戴致しました。
誌上を借りまして、心から御礼申し上げます。

エリア近畿　代表　杉山　信良（大阪府・栄光塾）

９月２７日（火）大阪在住のメンバーで集まれる先生で集まろうという事になり、午前１０時３０分に近鉄阿部野橋駅で集合して、再開発されたアベノキューズモールで二時間ほど今後のお話をしました。私塾ネットに興味を持って参加された非会員の先生もいらっしゃるので、最初はコーヒーでも飲みながらお話しして、と考えていましたが、初対面のＹ先生が「１１時になったら洋食屋が開くで」ということで、再開発後にキューズモールで営業を再開した１９４６年創業の「グリル　マルヨシ」で「大人のお子様ランチ」を全員でいただきました。飛田新地の近くですので、私塾ネットの先生方が大阪にお越しの際は、ご案内できるスポットが増えたと喜んでおります。

さて、第一回エリア近畿の会合は、私塾ネットの名簿に名前があるものの、連絡の着かない先生もいらっしゃっるうえに、オブザーバーで参加されたY先生も「うちはあんまり熱心にやってないし…」と、腰が引けたようなお返事で、「前途多難やな」と徒労感一杯で教室に向かいました。が…。

翌日、今年入会されたばかりの岡山先生から「Y先生が気に入ったみたいで、奈良県の塾長を紹介したいって言うてきたんやけど、奈良でも大丈夫かな？」とお電話をいただきました。奈良も確か？近畿なので問題ないと思っています。

自分の知り合いの塾長たちは、今加盟している以外の塾の団体には入らないか、団体には絶対に入らない人ばかりで、「どっかの団体に入りたいような人は、それまでに社団か関私連か塾全協にスカウトしてるわ！」と思っていましたから、「エリア近畿の新入会員なんて、どうやってみつけんねん？」と全くイメージが沸きませんでしたが、「ひょっとしたら、メンバーが増えていくかも？」と少し希望が持てるようになりました。

エリア中国　広報部長　西本　雅明（広島県・パワーゼミ西本塾）

前回のエリア通信でも報告しましたが、7月14日の定例会を「私学見学ツアー」として福山市内で開催しました。限られた時間の中でしたが、学校側の工夫された説明や、授業参観を通じて福山地区の私学を理解し、それぞれに窓口を持つことができたのではと感じています。校舎や教室などの斬新なデザイン、そして教室内にはパソコンと連動した大きなモニターや電子黒板があり、アナログ人間の私はとても使いきれない設備ばかりです。食堂は年中無休で営業時間も朝から晩まで生徒のいる間はいつでも利用できます。日曜日もクラブ活動で来た生徒達や、近隣にお住まいの人たちまで来場して結構にぎやかです。地下にあった食堂を最上階に移して明るく見晴らしのいいラウンジにするために現在工事中の私学もありました。きれいな食堂は生徒募集に役に立つのでしょうね。我塾は設備も古くぼろぼろになってきたので、何とかしなければなぁと感じました。当日は塾が私学を見て回るというので、ローカル新聞の記者が同行取材をしてくれて、小さいものでしたが写真付きの記事にしてくれました。私学の設備に刺激を受けた一日研修でした。

さて毎年の恒例行事である忘年会を11月13日（日曜日）に有馬温泉で行います。それぞれ最寄りの駅から予定の新幹線に乗り込み、福山からは全員そろって有馬温泉に向かいます。例年は各自がそれぞれの方法で現地集合なのですが、今回は行きも帰りも行動を共にするので、移動中も楽しみです。今年は現地での重い企画がないようなので、温泉三昧の癒し一筋になりそうです。

最後に個人的な話題になりますが、学習塾協会の「塾の日シンポジューム　in 長崎」に参加しました。来年は広島開催なので勉強のつもりで見てきましたが、九州の団結力とメンバーの（おとな度）に驚かされました。自身を省みるに「あぁ～だめだぁ～」と言わざるを得ません。

発行所／プレスシード　〒720-0004 広島県福山市御幸町中津原 1772-1 TEL.084-955-8815 FAX.084-955-8816【E-mail】inf

私学3校の日常体験

私塾ネット中国

国内最大規模の学習塾任意団体「全日本私塾教育ネットワーク」のエリア中国（佐藤将紀代表）が14日、福山市内にある私学3校の日常を見学した。

年に1度、福山での定例会にあわせて、近畿大学附属福山と盈進学園、銀河学院に申し入れた。

幼児～高校まで子ども達をあずかる10塾が参加。佐藤代表は「3校同時に比較する機会はこれまでなく、本当にありのままが見える」と語り、偏差値や進学実績といった数字だけではない雰囲気まで体感した。

近大附属では校舎改装の様子や授業風景を見学し、附属校ならではのメリットやコース制の説明を受けた。

盈進学園では、クラス人数分同じ本を揃えて行う読書科や美術と技術、家庭科をあわせた創作科など特徴的な科目について、教室内に入り見学した。

銀河学院では、小中高の沿革を聞き、もう2年で6年生までそろう小学校に質問が集中した。生徒や職員と同じ昼食も食べた。

東広島市で塾を経営する吉長あけみさんは「スリッパのそろえ方ひとつ見ても普段の落ち着きがわかる。勉強に集中できる雰囲気や、私学ならではの先生方の熱意が伝わった」と語った。

エリア四国　代表　寺嶋　謙次
（香川県・学習院セミナー）

先日、東京国際フォーラムにて開催された、「大学学部研究会」に行ってきました。「大学学部研究会」とは、日本を代表する32人の一流教授陣を全国の大学から招待し、人生を懸けて取り組む研究内容を高校生に熱く語る、という取り組みです。ブラックホール、ロボット工学、再生医療といった最先端の自然科学講義のほか、渋滞学、チャンス発見学といった耳慣れない学問分野まで、興味の尽きない講義が目白押しでした。

その中で、東京外国語大学の投野由紀夫教授が「英語力の構造をデータで解明する」というタイトルの講義を聞いてきました。内容は、「英語という言語がどういう構造をしているのか」「どういう風に勉強すればいいのか」ということを、データで明快に説明してくれるものでした。

まず、教授は、コーパス（CORPUS）という手法を使って、「英語という言語がどういう構造をしているのか」を説明してくれました（コーパス…実際に話されたり書かれたりした言葉を大量にコンピューター上に集めたもの）。例えば、ネイティブ・スピーカーの話し言葉1千万語をコーパスすると、5万7千種類の英単語が含まれているそうです。ここで問題です。5万7千種類の英単語のうちの頻出の上位100単語で、会話全体の67%をカバーできるそうです。驚きました、たった100語で英会話の3分の2が言えるわけですから。そして英会話の90%以上を言えるようになるには、あと1900語の英単語が必要だそうです。

以上をまとめると、【英語という言語は、100個の基本単語で文の骨組みが作られ、その骨組みの上に1900語の単語を加えることで成立している。】ということです。

英語の構造のイメージが、なんとなくつかめたような気がしました。

引き続き「大学入試の英語」についても話してもらえました。

投野教授は、有名大学400校の入試問題を10年分丸ごとコーパスしたそうです。合計で約500万語の英単語です。そして、この500万語の中に、全部で9万5千種類の異なり語があるそうです。（ちなみに、大学入試の問題というのは、どこかの英文を「拾ってきて使う」ので、ネイティブの書き言葉とほぼ傾向は一致するそうです。）ところで、その9万5千語のうち、400校10年間で1度しか出題されなかった単語がなんと7万語もあるそうです。つまり、覚えるだけ無駄な英単語が、7万語もあるというわけです。で、必ず毎年どこかの大学に出る英単語は1937語。ほぼ2000語だそうです（やっぱり、２０００語）。逆に言うと、残りの９万３千語は、どこの大学にも出ない年がある、ということです。要するに「たくさん覚えれば覚えるほどいいことがある」というわけではなさそうです。そうではなくて、「徹底的に理解すべき単語」と「覚えるべき単語」と「どうでもいい単語（役に立たない単語）」をちゃんと区別して、それぞれに見合った量のエネルギー（努力）を注ぎ込むことが大切なのです。

ちなみに、投野教授によると、高校で使用している教科書に出てくる英単語の中で、30～40%は、この「どうでもいい単語（役に立たない単語）」だそうです。したがって、「教科書に出てくる英単語を全部覚えなさい、という指導は間違っている。高校の先生には、『この中で、これとこれとこれは覚えなくてもいい』という、勇気のある指導ができるようになって欲しい」と熱く語っておられました。

渉外部報告　　渉外部長・佐藤勇治

10月22日（土）私塾ネット会長谷村志厚氏から、電話があった。私塾ネット広報を10月26日（水）に印刷するので、至急渉外部の原稿をということである。

今回は、「学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－」の編集で忙しいだろうから、そのこと書いてくれればよいとのことでした。

実は、7月中旬から、百年史の編集のことで、わが家の二階に籠城して、昼夜の区別なく毎日仕事をしてますので、きちんとした原稿を書くことは難しいと申し上げましたら、手書きの原稿を送信してもらえばOKということでした。急遽半日ほど時間をかけ、「百年史」の編集日誌を書きお送りするお約束を致しました。

1　日記帳をみながら、この5ヶ月を振り返ってみます。

6月13日（月）教育ネット要覧約2200冊を調布学園地下駐輪場で、あおき印刷の職員2人、菅谷先生、佐川急便の荷受人と私の5人で発送する。

7月10日（日）、NPO法人全国教育ボランティアの会の「いきいきワクワク体験親子の集い」を調布「あくろす」の二階ホール、三階調理室、その他研修室、会議室など2フロアを借り切って、コンニャク作り、望遠鏡作り、天文教室を行なう。参加者223名。

天文教室は一橋大学大学院名誉教授中嶋浩一先生、望遠鏡作りは、厚木ゼミナールの西畑正夫先生ご夫妻、コンニャク作りは、理事長の田中敏勝先生、菅谷友豊香先生、 渡辺幸子さんとご主人の渡辺美知太郎氏、木村正史先生、松田邦道先生、チャレンジ学院の馬渕恵理先生、その他調布学園の職員5名の15名で指導に当たる。実行委員長は佐藤勇治。

これで毎年恒例の教育ネット要覧の編集発送、NPO法人全国教育ボランティアの会の本部行事が終了し、7月中旬からは「学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－」の仕事に専念できることになった。

2　「学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－」の編集日記

平成17年秋から、百年史の企画と準備に入り、早いものでもう6年になる。この間、平成19年秋から約1年間は社団法人全国学習塾協会の二十周年記念誌

「絆きずな」の編集・発行に時間を取られてしまったので、正味5年間の作業日程である。

この間 原稿の依頼と収集、全12回の編集委員会、原稿と写真の整理、あおき印刷への原稿入力の手配など、今年7月下旬まで気の抜けない日々が続いた。

特に3月11日の東日本大震災の影響で、原稿の回収が予定より一ヵ月近く遅れたのは大誤算であった。

まず本格的な編集作業に入る前に、調布学園の2階事務室と和室(八畳)の2部屋を仕事場として専有することにした。

(1) 四十数年間に撮りためた写真、約50,000枚を地下の倉庫に保管しておいた。7月中旬からすべての写真を年代順に整理し、年月日、内容などをダンボール箱ごとに仕分けして、記入し、二階の仕事場に搬入するのに8月10日までかかってしまった。

その後 終日アルバムの仕分けとキャプション書き始める。

①調布学園53年史のアルバムとキャプション
②島本塾三代記のアルバムとキャプション
③全日本学習塾連絡会議のアルバムとキャプション
④全国私塾連盟前期(昭和35年～昭和56年)分のアルバムとキャプション
⑤全国私塾連盟後期(昭和57年～平成12年)分のアルバムとキャプション
⑥NPO法人全国教育ボランティアの会のアルバムとキャプション
⑦口絵のアルバムとキャプション

(2) 9月24日(土)あおき印刷が入力終了分の原稿を持ってくる。当初500頁を予定していたが、執筆者160余名(主要な学習塾50団体を含む)の先生方がご寄稿して下さり、最終的には2倍の1000頁になってしまったのは想定外であった。

9月26日(月)から、原稿の読み込み、部立て、章分け、節と番号(1,2,3→(1)(2)(3)－①②③)分け作業を昼夜兼行で始める。

(3) 学校には学校の歴史、塾団体は自分の団体が一番だという自負、また大手塾、企業塾、中小塾、個人もそれぞれ塾史があり、一つ一つの原稿すべてに、ほとばしる情熱が感じられ、感動で涙を流しながら読む原稿が幾つもあった。

今はこの仕事を、自分の人生の最終章で出来ることに感謝している。

(4) 今日(10月22日)全国の協同組合の原稿を読み、節に分ける作業をしている。大手塾の先生方の原稿から学ぶべきものが多くあることを知ると同時に、中小塾の集りである全国の協同組合の真剣な活動にも心を動かされた。

どの原稿も、本書のために、心を籠めて書いて下さっていることが良く分り、有難い気持で一杯になりながら、仕事を進めている。明日も、同じ歩みで仕事を進めます。

今日も最後まで全力投球で仕事を進め、後世に残る歴史書になるよう頑張りますので、是非ご支援下さい。

私塾ねっと誌上句会　第八回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

この道や　希望の光　菊枕　（石田治正）

星空や　喜びの声　隅田川
どこかの家族や仲間たちの声が聞こえてきます。

ふりかえり　ふりかえりつつ　坂の月　（中村直人）

避雷針　澄んだ空衝く　どこまでも
名月ならぬ、名避雷針ですね。

屋上に　友集い来て　月見酒　（長江勝秋）

秋刀魚焼く　けむりの香りで　まず一杯
日本酒の香り秋刀魚の焼けるにおいがしてきます。

砂浜の　石みな丸し（まろ）　秋日和　（松本紀行）

温もりの　残りし岩に　秋茜（あきあかね）
触れると温かかったそんな岩、記憶の底にありますね。

三陸の　秋刀魚に阿波の　酢橘（すだち）そえ　（谷村志厚）

野も空も　茜の里の　赤とんぼ
こんな風景がいつまでも続いてほしい。

古宿の　露輝かし　蜘蛛の糸　（梶原賢治）

窓枠に　おさまりたるや　猫と月

編集部からお願い
次号は2月発行の新春号です。
投句はお一人4句まで新年またが春の季語でお願いします。
投稿はメールshikot@aim-net.co.jpまたはFAX047-368-2189　谷村宛。
締切は1月末日です。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

みなさん、名簿はお手元に届きましたでしょうか？
何度か校正をし、役員MLやHPで確認などしましたが、届いたと思われる翌日くらいから、訂正のFAXが数枚飛び込んできました。住所の間違えなどもあり、大変申し訳なく思っております。と同時に、ネット要覧を毎年作られている佐藤勇治先生の偉大さをつくづく感じました。(社)全国学習塾協会主催の「塾の日記念式典」で、北海道の神野紀子先生にお会いしとき、「私は、私塾ネットの会員ですか？」と聞かれ、「もちろんです」と答えたのにかかわらず、翌日届いた名簿に名前が抜けている始末。穴があったら入りたい気持ちです。どうぞ、温かく見守ってくださいませ。

さて、1年延期になった私塾ネット設立10記念講演にお呼びする方が、ほぼ決定いたしました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、松下政経塾初代塾頭の上甲晃氏です。上甲氏は、北方領土問題などにもご興味を持たれていることもあって、根室の地を何度か訪れ、私塾ネット会員の岸部先生(育英塾)とは、家族ぐるみでお付き合いされています。

私は幸いにも、昨年の11月に、育英塾の40周年記念講演で、お話を聴く機会を得ることができました。昼は主に小学生に向けて、夜は保護者・高校生へ向けてのお話をされました。上甲氏は、自分のことより人の役に立つことを第一に考えていらっしゃる方ですから、どのような階層の人の心にも響いていきます。今回の東日本大震災でも、ご自身が主宰する「青年塾」を中心にいち早くボランティア活動され、何度も被災地を訪問されています。松下政経塾の時の塾生には、野田総理を始め、蒼々たる方たちがいらっしゃいますが、「幸之助氏はこんな政治を望んだのではない」と、常に苦言を発していらっしゃいます。教育に関しても「不自由、不親切、不便」が必要だと解き、自立心を養うことの大切さを伝えてくださいます。

当日は、「青年塾」の入学式がありながら、調整して何とかお越し下るとのことです。岸部先生との信頼関係がうかがわれます。また、ここで書くべきではないかもしれませんが、驚くほどリーズナブルな講演料で引き受けてくださいました。楽しみにしていてください。

閑話休題　　編集長　谷村志厚

前号の当欄で東日本大震災について触れ、家内が7月から石巻に入りボランティア活動を開始したことを紹介した。あれか3ヶ月が経過し、小さなきっかけが「私塾ネット出前寺子屋」という支援活動に成長してきた。ボランティアに参加したいのだが機会がないという声をよく聞く。会員の皆さんでもそのような思いをされておられる方には、ぜひ今回の取組みを活用していただきたいと願う。

被災地に慰問に行ったが、逆に励まされたなどと言う発言を聞くことが多い。たしかにその通りで、出前寺子屋でも同様の経験をすることが多い。被災者である受講生の皆さんの、前向きな取り組みを見るにつけ、学びの意義はここにあるなと納得させられる。親子あるいは兄弟が机を並べて学習する姿を目の当たりにすると、家庭学習の原点はこれだなと気づかされる。このように教育に対する勇気と励ましをいただくことが多いのだ。志ある仲間の皆さんと、このようなすてき体験を共有できたらと願う。

フォート・ほっとコラム

寛　＜気持ちにゆったりとゆとりのあるさま＞

素敵な田舎風モダン宿を見つけました。
仕事を退いてからは暇な時間もできテレビを見る機会も多くなりました、ひねったチャンネルでたまたまやっていた「厳選いい宿」で見つけた「湯宿蛍」に行って来ました。

今回の旅は広島から熱海までの往復新幹線自由席キップと泊まる宿だけ手配しての、のんびり旅。
まずは「初秋の高原を見たい」と思い宿が伊豆大川ということもあって、伊豆高原駅から大室山を目指してみました。天候は晴れ、ススキが白く輝いて風に揺れるのを横目に見ながらリフトで山頂へ。山頂は大きな火口跡で見晴らしがよく、遠く伊豆大島（たぶん）まで見える眺めのいいところ。しばらくの間のんびりと伊豆高原の秋を見ていました。

夕暮れ前に宿へと向う。今宵の宿は人気の宿のようで予約でいっぱい。たまたまネットで空いていた部屋を見つけて予約したのですが、この残りの部屋ががあたり。アジアン風の広い角部屋は落ち着いた家具で統一され、寛げる素敵な部屋でした。温泉もこじんまりしてのんびりできました。特筆は食事で、夕食は豪華でおいしい海の幸。金目だいの姿づくりは絶品。おまけに朝食も心のこもったおいしい料理が並び大満足。

一日６組の小さな田舎風モダンな宿でしたが皆様にお勧めできる寛ぎの宿でした。

寛　・・・＜差し迫った用がなくて、のんびりしているさま＞・・・

（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　丹野　秀彦先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　小嶋　輝夫先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

京北学園中学高等学校　野中　政廣先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　園田　義宣先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校

村田学園小石川女子中学校　小林　隆司先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-5　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　金井　一郎先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　和田　功様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
新宿区新宿 5-17-17　渡菱ビル7F　TEL03-5155-8122